



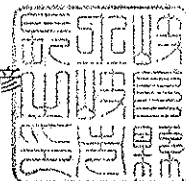
平成19年5月7日

土監第390号

国土交通省道路局長

宮田年耕様

土岐市長 大野信彦



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について (回答)

陽春の候、貴職におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また日頃より道路関係事業につきまして、多大なるご指導、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、平成19年4月2日付け国道企第114号でご依頼のありました標記につきまして、別紙のとおり回答いたしますので、よろしく願いいたします。

名古屋市の通勤圏である土岐市にとって、名古屋市や周辺都市に至る幹線道路、中でも国道19号は最も重要な路線である反面、これに偏った交通の状況は市街地に留まる車と市街地を通過する車が混在し、渋滞が日常化しています。こうした状況の解決を図るためには、この地域の都市間を結ぶ東濃西部都市間連絡道路の早期建設が必要です。これにより目的地に応じたルートを選択ができることとなり、交通渋滞を解消し、生活環境を向上させるのみならず、これに伴う排気ガス削減効果など環境問題に対しても一定の効果があると思われます。また、近年頻発する地震災害に対して、高次救急医療施設へのアクセス道路や緊急輸送路の代替路線の確保を図る上でも、都市間を結ぶこうした道路建設は欠かすことができません。

道路整備の効果は、前述の生活環境の向上、環境対策、災害対策に加え、経済的、文化的効果は非常に大きく、平成17年3月に開通した東海環状自動車道は、沿線の市町に新たな産業・商業拠点を次々と生み出し、経済・文化両面で新しい可能性を示しました。本市においてもプラズマ・リサーチパーク内の大型商業施設「土岐プレミアム・アウトレット」に続く企業の進出、市北部の新たな工業団地の建設など、地域の発展は東海環状自動車道なしには成し得ません。今後は、こうした高規格道路をさらに有効に利用するため、スマートインターチェンジの建設も積極的に進めるべきで、特に周辺に観光施設、工業団地などが存在する場合は、その施設へのアクセスの利便性を確保することで、既存の道路、周辺の住環境への負担を軽減することができます。

最近、都市部と地方の格差が指摘されていますが、道路網の整備は、日本全体の国土計画を考える上でも非常に大切です。都市部での快適な暮らしは、水資源や電力の供給など地方に支えられている一面もあり、国土保全と資源供給に森林の果たす役割は大変大きく、中山間地に人が住み続けられる環境を整えるためにも、幹線道路から農道、林道までその機能に合った道路ネットワークを構築する必要があります。

平成19年5月7日

土岐市長 大野信彦